

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## あなたの知りたいに答える「Q&A」

Q： 特別な支援を必要とする子どもに対して、どの程度注意し、どの程度許容したらよいのか知りたい。

A： 集団生活では、みんなと同じようにルールを守って行動することが求められたり、学年が上がるにつれて要求されることが増えたりする。特別な支援を必要とする子どもは、うまく適応できず、注意を受けることが多くなりがちになる。その結果、「私はダメな人間なんだ」と自己肯定感が低下し、学習意欲を失ったり、周りの注意を引くために問題を起こしたりする。

最初はストライクゾーンを広めにして、ターゲット行動を絞り、失敗を細かく指摘するよりもできたことやよかったところをほめる、小さな成功体験を重ねて自信をもたせながら、少しずつみんなと同じ大きさにしていく。

周囲から「どうして〇〇さんだけ・・・」とならないように、困ったときは誰でも支援を受けられることを伝え、「みんなの先生」を宣言して、特別な支援を当たり前な支援にする。また、「かけがえのない自分」を実感できるように、一人一人の子どもに合ったえこひいきをする。

ねらいや願いをもって毎日子どもを見たり、関わったりして信頼関係を築いている担任の先生だからこそ、「どの程度」の答えを見付けられるはずである。

Q： 緊張すると吃音になる子どもへの支援を知りたい。

A： 【一般的な支援】

- ・自由な雰囲気ですらに話すことを奨励する。
- ・苦手な場面や語音に対する緊張を解消する。
- ・本人の自己実現を援助する。
- ・周囲の態度を改善する。

【学校でできる支援】

### ①子ども自身が気にしていない場合

- ・特別な手立ては行わず、発言・発表の場を他の子どもと同じように与える。
- ・急がせず、ゆったり聞くように心掛ける。言葉に詰まっても気付かないかのように対応する。
- ・吃音症状が出ていなかったからといって、取り立ててほめることもしない。
- ・子どもが希望しない不必要な配慮（発表の機会を少なくするなど）はしない。

### ②子ども自身が気にしている場合（発表や会話に対する意欲が低下している）

- ・音読や発表などについて、本人がどう考えているか、担任や友達はどのような支援をしたらよいかを、直接話し合う。
- ・「ゆっくり落ち着いて」「リラックスして」「深呼吸して」などの話し方への注意や励ましは、子どもにとって心理的負担になることがあるので見極める。
- ・順番指名の発表や順番音読等、予想がつく場面で緊張感が高まり、吃音症状が悪化することがある。事前に指名しないことを本人に伝えて了解を得るとともに、活動場面ではランダムに指名する方法に変える。
- ・一斉音読やペア及びグループごとの音読は取り組みやすいので、積極的に取り入れる。
- ・保護者の同意を得て、学級全体に説明して理解を求める。吃音という用語ではなく、緊張すると言えない言葉にぶつかり、喉に鍵がかけられた状態になり、うまく話せなくなると説明する。また、相手が話し終わるまで待つ、相手の話を最後まで聞く、そして、話し方をまねる、指摘する、笑うなどのからかいはしないことも指導する。
- ・あなたはと同じ人はいない。あなたは他の誰とも違う、かけがえのない大切な人であ



ることを伝え続ける。あなたにはうまくできることがたくさんある。あなたが困ったとき、助けてくれる人がたくさんいることを忘れないでほしいと話す。

※私は吃音に悩んでいた同級生に克服できたコツを聞いたことがある。「小学5年生の時、担任の先生にあることをほめられて、それが自信となり、気付いたら吃音が気にならなくなっていた」と話していた。子どものよさを引き出すことが、苦手さを克服する鍵となる。

Q：園や学校に対して、非協力的な保護者への対応を知りたい

A：保護者へ誠意と敬意ある態度を心掛けるとともに、家庭での様子を尋ねたり、園や学校でうまくいった支援方法を伝えたりして連携を図っていく。

保護者と同じ方向を向けるように、子どもの課題は園や学校の課題でもあることや、一番困っているのは子どもであるというスタンスをもつ。また、日ごろから子どもの頑張りや小さな変容を伝えて保護者と一緒に喜び合い、「信頼・変容・成長」へとつなげる。

正論や善悪を並べて説得するのではなく、先生がどれだけ子どもを可愛く、大切に思っているかを感じ取ってもらう。そのために、自信をもって子どもと関わる姿を見せる。

Q：失敗恐怖が付きまとう子どもへの支援を知りたい。

A：みんなと一緒に活動や学習のとき、やる前から失敗を過度に恐れ、失敗したくないから挑戦をやめてしまう子どもがいる。過去にうまくいかなかった経験をした、活動に自信がなかったり、見通しがもてなかったりすることが考えられる。「先生、助けて」と言語化できない心の叫びやもがきを理解する。

①時間をかけて、子どもの本当の叫びや不安な気持ちを解きほぐす。

②「正しい答えを言わなくてはいけない」、「答えは一つだ」という思い込みを変えていく。

③部分参加等、いろいろな参加の仕方があってよいことを伝える。

④やることを事前に伝えて、予習やリハーサル等を行う。

⑤活動の内容ややり方をモデルで示したり、視覚支援で提示したりする。

Q：こだわりへの対応を知りたい。

A：【こだわり行動】



①変化を受け入れられない

マイルールがあり、その変更を受け入れることが苦手で、少しでもそのルールが変更されるとパニックになる。

②同じことを繰り返す

気に入った遊びや刺激・行動を、延々と繰り返すこと、終えられない・切り替えられないことがある。

③新しいことや環境に対して、拒否反応を示す

初めての人や環境、見通しの持てない（何が起こるか分からない・想定できない）状況を受け入れることが難しく、その場にいることや参加に抵抗を示す。

【対処法】

・最初から否定しないで、こだわりを認める、利用する、許容範囲を決める。

・無理をしないで、スモールステップで改善を図る。

・いつもと違うスケジュールを入れるなど、パターンを意識的に崩していく。

・授業や行事の変更は早めに伝え、見通しがもてる工夫をする。

例：分かりやすい言葉で伝えたり、絵カードやスケジュール表を使ったりする。



**とれたて直送便**



「物音を意識していますか？」



人間というのは、声だけではなくて、どうしても物音を立てます。しかし、話している自分の声は意識できても、自分の出すアクション・ノイズまではなかなか意識が回らないものです。物音はその人の感情とか、内面を表してしまうことがあります。（ドキッ！）

